

論 説

「いさめてくれる部下は、一番槍

をする勇士より値打ちがある」とい

う言葉を知っているだろうか。これは徳川家康が残し

た言葉で、自分の行いが間違っているとき、その行いを注意してく

れる部下はただ仕事のできる部下よりも価値があり、その意見は

大切にしなければならぬという意味である。

自分が何かをしようとして、それに間違っているとかがあつた場合、周りにその間違いを指摘

してくれる人がいなかったり、間違いを指摘してくれる人がいた

としてもその忠告を無視してしまつたら、自分の行動が間違つて

いることに気がつくことができない。

例えば、部活の試合で応援をする際などに選手を激励することを優先するあまり、選手に励ましの言葉ばかりを掛けたことはないだろうか。その行動は試合に出ている選手

の励みになるかもしれない。しかし、本当に選手のためになるのは十分健闘している選手に対して頑張れと言ったり、甘やかすような応援

をすることではない。相手の間違いを指摘し、試合に勝つためのアドバイスをするのではないだろうか。

そして注意を受ける立場の選手も、指示を受けていたら立つのではなく自分たちが勝つためにアドバイスをしてくれたのだと思つて聞き入れ、注意されたところを意識して克服することが大切だ。

このように、自分の行動に間違いないことである。親や先生に「勉強をなさい」もつとしつかり

「なさい」などと何度も同じことを注意され、腹を立ててしまい、その言葉を無視してしまつたこととはないだろうか。腹を立てることがあつたとしても、その注意を受け入れずにいると、社会人になつたときに失敗して、後悔するかもしれない。逆に、友人の行動が間違つていることに気がついたら、その間違いを注意しなければ、そのせいで友達が失敗してしまふかもしれない。

普段の生活の中でも、自分に注意してくれる人やその意見を大切に感謝し、相手の間違いに気付いたときには相手のためを思つていさめ、アドバイスをすべきだ。

感謝すべきなのである。そして、これは普段の生活にも言

べきだ。

べきだ。

指摘し合える人を大切に